

「一向宗存亡の鍵を握るのは、ただ一人の若き僧侶  
… 歴史に埋もれた硝石製造の謎が今解き明かされる！」

戦国時代後期、戦の主力武器は刀槍や弓から火縄銃に変わった。  
その火縄銃に使用される「火薬」の最重要の原料が「硝石」である  
が、その全てを外国からの輸入に頼っていた。

戦の勝敗を左右する力を秘めた火薬と、それを生み出す硝石。  
天下統一を目指す織田信長に対抗する一向宗石山本願寺はその存  
亡をかけ、硝石を自ら製造するためにある大胆な計画を企てる。

本書『越中五箇山硝石秘話 ～一向宗存亡をかけた戦い～』では、  
戦国時代の表舞台では語られなかった、硝石を巡る極秘ミッション  
に迫る。

- ・なぜ一向宗は硝石を求めたのか？
- ・我が国における硝石製造の来歴と越中五箇山の地に隠された秘  
密とは？

この物語は、歴史の狭間に埋もれた「硝石」製造の秘密を織田信  
長、一向宗石山本願寺、堺商人、朝鮮王朝、そして本願寺の密命を  
背負った若き僧侶に絡めて描き出している。



四六版（並製本）  
332 ページ  
定 価 1,815 円（税込）  
発 行 松尾 修  
【 注文先 】  
◆アマゾン

# 『越中五箇山硝石秘話』

～ 一向宗存亡をかけた戦い ～

松尾 修 著

令和 7 年 3 月 10 日 発刊 !!

## ● 著者紹介 ●

松尾 修

1960 年福岡県北九州市生まれ。2020 年国土交通省を退職し、現在は長野県の神稲建設(株)に勤務。  
登山歴は 40 年を越え千種アルパインクラブ(名古屋市)に所属し、年間を通してロッククライミング・  
積雪期バリエーションルートの登攀などで登山活動をしている。

また、登山を愛好するかたわら、信州を題材にした小説を執筆している。

著書に「竹澤長衛物語－南アルプス開拓の父」（山と溪谷社）、「高遠旅石工たちの幕末一時に託された  
想い」（講談社エディトリアル）、「白嶺の墓標」（アマゾン）がある。